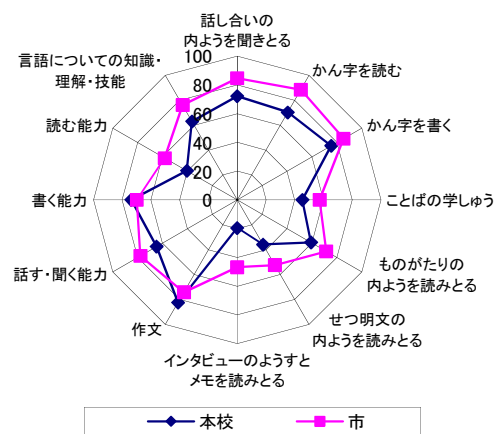


宇都宮市立上河内西小学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞きとる	72.2	84.6
	かん字を読む	70.4	88.6
	かん字を書く	75.5	85.4
	ことばの学しゅう	45.4	57.3
	ものがたりの内ようを読みとる	59.3	71.5
	せつ明文の内ようを読みとる	35.8	52.5
	インタビューのようすとメモを読みとる	19.4	46.8
	作文	82.4	74.2
観点別	話す・聞く能力	64.8	77.8
	書く能力	73.7	69.9
	読む能力	40.5	58.2
	言語についての知識・理解・技能	63.0	76.0



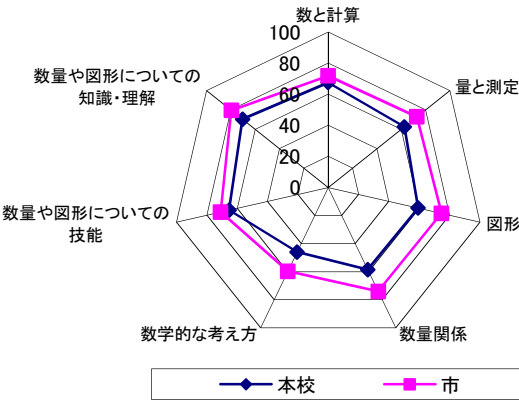
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞きとる	まず、日常生活からも人の話を聞いていないために、次の作業が分からない児童が何人か見られる。 放送を聞いて必要なことを聞き取るこの問題では、大事なことが何か、どこに注意して聞けばよいか分からないため、正答率が低くなったと思われる。	まず、人の話を聞くことは第一である。 さらに、どのようなところに注意して聞きとればよいのかを考えさせ、指導していくことが必要だ。例えば、「5W1H」のような基本的なことから整理して、聞き取ることができるようになっていきたい。
かん字	「漢字の読み」に関しては、第2学年までの漢字、第3学年で習った漢字ともに、市の正答率より低い結果だった。 また、「漢字を書く能力」では、4問あるうち市の平均を上回っているものと大きく下回ったものが、それぞれ1問ずつあった。	漢字は引き続き、毎日の課題として取り組んでいく。3年生で習った漢字だけでなく、2年生までの漢字も出題し、児童の定着を図る。 また、習った漢字は必ず書くよう、日頃のノート指導や作文の添削においても、繰り返し指導していく。
ことばの学しゅう	「ローマ字のつづり方」は、学級全体として苦手である。授業において、自分の名前をローマ字で書くことさえも苦労している実態があり、今後も折に触れ、書かせていきたい。 普段の生活においても、新しい言葉や分からない言葉を「国語辞典」で引くよう、習慣づけていきたいと考える。	言葉の学習は慣れることが第一である。 具体的には、英会話の時間に配られたプリントは、ローマ字で名前を書かせるなどして、意識的にアルファベットに触れる時間を増やしていく。 新しい言葉や分からない言葉を習った際には、すぐに辞書を引いて調べる習慣をつけて、国語辞典を使っていきたい。
ものがたりの内ようを読みとる	全体的に「読み取り」を苦手とする傾向があるが、特に「登場人物の気持ち」を読み取ることができていない。 場面の様子を読み取る問題においても、市の平均を下回っており、文中から状況を理解することができていない。	物語の読解問題に関しては、ワークシート等を工夫し、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化などを想像して読み取れるようにする。 朝の読書タイムや読み聞かせなどで、物語文にふれる機会を増やしていきたい。
せつ明文の内ようを読みとる	他の分野に比べ、特に低い。 説明文を読んで、段落の内容をまとめる問題では、市の平均正答率の半分にも満たなかった。他の物語やインタビューの内容を読み取る問題に比べて最も正答率が低い結果となった。	説明文の読解を苦手とする要因の一つとして、児童の読書の質が考えられる。児童は物語や伝記を好んで読んでいるが、ノンフィクションの本や説明文を積極的に読んでいる様子は見受けられない。 文脈ごとの内容理解においては、難解な表現や指示語などを丁寧に解説しながら指導していく。
インタビューのようすとメモを読みとる	日頃から読み取りに対し、苦手意識を持っており、読み取った情報の共通点や相違点をとらえて整理する問題では、市の平均正答率の半分に満たなかった。 また、インタビューのメモを見て回答する問題においては、与えられた情報から、よいと思われることを読み取ることができなかったため、正答率が低かったのではないかと分析する。	インタビューのメモのような、要点を簡潔にまとめて文章につなげていくことを苦手としている。 普段から必要なことをメモしたり、情報を整理したりする習慣を身に付けさせたい。
作文	「作文」は、週末の課題として日記を習慣づけているためか、市の平均正答率よりも高かった。特に「自分の考えや必要な事柄、理由」については、市の平均を大きく上回っていた。 しかし、2段落構成で文章を書く問題では、市や全国平均と比較して最も低かった。	作文の課題は今後も引き続き行っていく。文章を構成する際に、段落を意識して書くことができるよう、指導していきたい。 普段の国語の授業においても、形式段落の番号のふり方、物語や文章の構成からみた段落の内容のまとまりを考えさせていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	67.5	71.8
	量と測定	62.6	72.8
	図形	59.3	74.7
	数量関係	58.5	74.1
観点別	数学的な考え方	46.0	59.7
	数量や図形についての技能	65.3	70.9
	数量や図形についての知識・理解	70.4	79.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	「数と計算」では、市の平均に近いが、それを上回る正答率が多かった。特に、ひき算や割り算の計算問題では、市と全国の平均正答率を上回った問題がいくつか見られ、よくできていた。 しかし、余りのあるわり算のわる数と余りの関係を記述する問題では、正答した児童が一人もいなかった。	計算問題に関しては、今後も毎日の課題として引き続き、基礎・基本の定着を図っていく。 また、記述問題においては、日頃から計算の仕方を言葉で説明させる機会を設けるなどして、表現する力を向上させたい。
量と測定	「時こくと時間」は、全体的にできていない。特に、2つの時刻を比較して、その間の時間を求める問題では、正答率が50%に満たなかった。 また、「長さ」は比較的良好にできているが、「重さ」はできている児童とできない児童の差が大きい。	時刻に関する問題では、普段の学校生活の中でも、決められた時間から逆算して意識した生活ができるよう指導していきたい。 今回のように、2つの時刻の間の時間を求めるような問題は、学級全体として苦手な傾向がある。学年末に向けて、まとめの学習の際には、復習する機会を設けていきたい。
図形	「はこの形」では、直方体を作るときに必要な面の形を理解する問題において、市の平均を大きく下回った。 どのような形で、どのくらいの大きさの面がいくつ必要なのかを、箱を展開して考えることができなかったためと分析する。	空間的にものをとらえる力が不足している。 全体的に、計算問題よりも図形を苦手としている傾向が強い。 今後は、算数的活動を通して、実感を伴った理解ができるよう支援していきたい。
数量関係	棒グラフから人数を読み取る問題では、市の平均正答率を上回っており、学級全体としてもよくできていた。 しかし、□を使った文章問題では、市の平均を大きく下回っており、問題における情報の関連性が見えていないのだと考えられる。	□を使った問題に関しては、文章から必要な情報を読み取り、その関連性および使い方が理解できるよう、何を問われているか考えられる視点を身に付けさせたい。 具体的には、教科書の問題においても、情報を整理して、式を組み立てるところまで、共通理解を図っていきたい。